巻頭特集

みんなと一緒にご飯を食べよう！

桑名市の子ども食堂

ここ数年で一気に広がりを見せる子ども食堂。この地域にも、一人でも、友達や親と一緒でも、あたたかく迎えてくれる食堂があります。「友達と一緒に宿題がしたい」「いろんな人と話したい」「もっと遊びたい」など、参加のきっかけはそれぞれ。地域の人と一緒に楽しいひとときを過ごしませんか。

1_大人数のところから少人数の食堂までさまざま　2_学生や若い世代も学業や仕事の合間を縫って、ボランティアに参加しています　3_流しそうめんなどの楽しんで食べられる料理のほか、英会話教室、工作体験など、工夫を凝らしたイベントも満載　4_安心・安全な場を守るため、ボランティア参加者は面談などを経て、参加しています　5_食材はいろんなところから集まってきます。「ネットワークができることで、各団体平等に食材が行き届けば」と、団体間の連携強固も今後の目標です　6_子ども食堂は、子どもたちにとって「地域とつながる入り口」。交流を通して育まれた縁をきっかけに、新たな支援につながるケースも

「雰囲気の合う場所へ」ほっとできる居場所づくり

「場所ごとに思いや雰囲気が異なります。それでいいんです」と、今回取材に協力してもらった皆さんは、口をそろえます。

桑名市では、中心部で「NPO法人 太陽の家」が「桑名こども食堂」を、城南では「城南こどもくらぶ」が「こども食堂 いな穂」を、大山田では「ガーデン大山田」が多世代交流の「ガーデンキッチン・たんぽぽ」を月1回のペースで子ども食堂を実施しています。また、「わくわくフレンズ」は大山田の民家で月2回開催。走井山善西寺でも「善西寺おてらこども食堂」が開かれており、その輪は広がっています。

子ども食堂と一口にいってもその活動方針はさまざま。学区の子どもとその親を対象としているところもあれば、地域の高齢者が参加可能な場所もあります。

共通しているのは、「たくさんの親子が気軽に利用できる場所にしたい」という思い。子どもたちが自由に出入りでき、学校や家庭とは異なる経験ができる場所でありたいと願っています。

核家族化や共働き世帯の増加、近隣住民とのコミュニケーションの希薄化が叫ばれる昨今、新しい地域交流の場や、子どもたちが安心して友達と遊べる場所が求められています。「ボランティアで調理や運営を手伝ってくださっている方たちは、高校生から社会人、企業の経営者、地域の高齢者までさまざま。子どもたちは多くの人と触れ合うことで、将来の選択肢を広げています」と話すのは、「NPO法人 太陽の家」理事長の対馬あさみさん。子どもの頃から多くの人と交流し、さまざまな人の目線を体感してほしいと考えています。

また、安心して友達と過ごせる場所であることも重要。子どもとその保護者であれば、誰でも参加できる場合が多く、大人が見守る安全な場所で友達と遊んだり、宿題をしたり、一緒にご飯を食べたりできる自由な空間が用意されています。「遠慮することなく、気軽に訪れてほしいですね」と皆さん笑顔で答えます。

全国各地で開催されてきた「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー」を、桑名市で今秋実施しようと取り組んでいる対馬さん。「県全体を巻き込み、子ども食堂を盛り上げていきたいです。これから活動を始めたい人、せっかく始めたけれど運営方法に悩んでいる人などもサポートしたい」と意気込みます。地域団体をつなげ、地域住民の誰もが子ども食堂を理解し、関われる仕組みをつくることを目指します。

多くの人と食卓を囲む一方で、「いろいろな経験ができる場所に」と、そば打ち体験や流しそうめん、英会話教室、工作教室といったイベントも満載です。「今日のご飯はなーに？」、「おいしそう！」と元気よくやってくる子どもたちと、優しく迎えるスタッフ。そんな温かい様子が地域にとって当たり前となる日もそう遠くないかもしれません。

取材に応じてくれた「城南こどもくらぶ」の後藤三保子さん、「NPO法人 太陽の家」の対馬あさみさん、石原佳代さん、「ガーデン大山田」の平手マリ子さん（左から）

桑名こども食堂

毎月、第3木曜日の夜に桑名市総合福祉会館で開催されています。ボランティアのスタッフは高校生から地域の高齢者まで幅広く、40人ほどが時間を見つけて参加。対象を社会人になるまでの子どもたちとその保護者と広く設定し、高校生や大学生でも入りやすい雰囲気を心がけています。食事の前には必ず「プチイベント」を実施。関係者それぞれが得意を生かし、楽しい体験を提供しています。

ガーデンキッチン・たんぽぽ

旧大山田生協クリニックを活用して、乳幼児から高齢者まで地域の人々の「たまり場づくり」に取り組む「ガーデン大山田」。毎月第4金曜日に開催している子ども食堂は、高齢者が調理を手伝ったり、一緒にご飯を食べたりする多世代交流の場として運営されています。「必要としている子どもが一人でも地域にいる限り続けたい」と、広報活動にも注力し、活動の輪を広げています。

こども食堂 いな穂

「昭和の頃のような地域全体で子どもたちを見守る子育てを」と取り組む「城南こどもくらぶ」が主催。学区の子を対象に城南まちづくり拠点施設（旧城南市民センター）で開催しています。「ご飯食べてくるから100円ちょうだい」といった親子のスキンシップを大切にしたい思いで、料金を設定。「放課後子ども教室」の運営もしており、地域の子どもたちと密に接しています。

わくわくフレンズ

無償提供を受けた大山田の民家で、月2回運営。学区の制限は設けず、高校生までの子どもとその保護者を対象としており、子どもたちが楽しめる場、親同士・親子の触れ合いの場となることを目標に、温かい雰囲気で運営されています。若い母親を対象とした、野菜栽培体験や地域の人が気軽に集える「プラチナカフェ」も運営。地域にとってより良い場を目指し、活動しています。

※それぞれの活動詳細については、「団体名」で検索し、SNSやウェブサイトでご確認ください。

文・写真／青野穂波　写真提供／ガーデン大山田　デザイン／ABBEY ROAD